努力事項解説　その3　（中学校特別活動）

望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、ガイダンスの機能を充実させ、生徒の学校生活への適応や人間関係の形成、主体的な進路の選択などができるよう指導・援助に努めましょう。

「望ましい勤労観、職業観を育成する」とは

学級活動の活動内容（3）学業と進路の「エ　望ましい勤労観・職業観の育成」の指導を適切に行いましょうということです。（※1参照）

学習指導要領解説に書かれていることを基に整理すると次のようになります。

1　指導のねらい

（1）さまざまな社会的役割や職業及び職業生活について理解する。
（2）人は何のために働くのか、なぜ働かなければならないのかを考える。
（3）将来、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度を持つ。

2　実践の例

（1）　題材例
　①　自分の役割と生きがい
　②　働く目的と意義
　③　身近な職業と職業選択

（2）　活動例
　①　調査やインタビューをもとに話し合う。
　②　調査したことを基に話し合ったり、ディベートを行う。
　③　次の学校行事の事前、事後指導として、調査、話合い、感想文の作成、発表を行う。
　　・　地域の職業調べ
　　・　事業所・福祉施設等における職場体験や介護体験
　　・　職業人や福祉団体関係者を招いての講話

3　留意点

（1）生徒が働くことの楽しさや厳しさに気付き、勤労や職業への関心・意欲を高めることができるようにする。
（2）勤労や職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適性を発揮していることを理解できるようにする。

「ガイダンスの機能を充実させ」とは

ガイダンスの機能とは、「生徒指導や進路指導にかかわって、生徒のよりよい適応や成長、進路等の選択にかかわる、集団場面を中心とする指導・援助であり、生徒一人一人の可能性を最大限に開発しようとするもの」であり、これを充実させましょうということです。（※2※3参照）

学習指導要領解説に書かれていることを基に整理すると次のようになります。

1　ガイダンスの具体的な内容

（1）以下の内容について、学校が計画的、組織的に行う情報提供や案内、説明すること

生徒の学級・学校生活への適応　　好ましい人間関係の形成
学業や進路等における主体的な取組や選択　　自己の生き方

（2）情報提供や案内、説明に基づいて行われる学習や活動

2　ガイダンスの機能の充実

（1）ねらいを明確にし、適切な場や機会を設け、よりよい方法・内容で実施するよう改善する。
（2）指導計画を作成し、教師の共通理解と協力により、効果的に行うようにする。

3　ガイダンスの機能についての、学級活動にかかわる配慮事項

（1）　学級活動でのガイダンスの機能の充実

（1）生徒が学校における諸活動や集団の意義、内容等について十分に理解すること。
（2）よりよい適応や好ましい人間関係の形成に向けて積極的に活動する意欲や態度を養うこと。

（2）取り組む内容

①　入学時や新学期の開始の時期に、生徒がこれから始まる学校生活について十分な情報を得て、見通しをもって学校生活に取り組めるように指導・援助しましょう。
②　学年全体で指導の充実を図ったり、保護者の教育力あるいは上級生の経験を活用しましょう。
③　上級学校との連携による体験入学の機会を設けたり、卒業生の経験を生かしたりするようにしていきましょう。
④　特に、中学校入学当初では、次のことに配慮しましょう。
・　中1ギャップにる学校不適応等に十分配慮し、一人一人の生徒に気を配るようにしましょう。
・　生徒に希望や目標を持たせるように配慮して進めましょう。
・　小さなことでも達成感を味わわせるようにしていきましょう。
⑤　学区内の小学校との連携を深め、中学校への体験入学や保護者説明会等の場を設けるようにしましょう。

※1

人は、働くことや職業を通じて社会と深くかかわり、生きている。勤労や職業についてどのような考えを持ち、日常の生活の中でそれぞれの役割を果たすとともに、どのような職業に就き、どのように職業生活を送るかは、人がいかに生きるか、どのような人生を送るかということに深くかかわわっているのである。しかし今日、勤労や職業に対する理解の不足や安易な考え方など、若者の勤労観・職業観の未成熟さが指摘されている。それだけに、望ましい勤労観・職業　観をはぐくむことは、進路指導、さらにはキャリア教育にとって重要な課題である。

このような課題を踏まえて、自己と社会とのかかわりを考える中学生の時期をとらえ、生徒が、様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解するとともに、人は何のために働くのか、なぜ働かなければならないのかを考え、将来、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度をもつことができるよう、内容を取り上げることが大切である。

具体的には、自分の役割と生きがい、働く目的と意義、身近な職業と職業選択などの題材を設定し、調査やインタビューをもとに話し合ったり、発表やディベートを行ったりするなどの活動の展開が考えられる。

また、学校行事などとして実施する地域の職業調べや事業所・福祉施設等における職場体験や介護体験、あるいは職業人や福祉団体関係者を招いての講話等との関連を図りながら、それらの事前、事後の指導として、調査、話合い、感想文の作成、発表を行うといった活動の展開　も考えられる。

その際、生徒が働くことの楽しさや厳しさを知り、勤労や職業についての関心・意欲を高めることができるように指導・援助することが大切である。

また、人が、勤労や職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適性を発揮しているということが理解できるよう指導・援助することも大切であり、道徳の時間をはじめ各教科等との有機的な関連を図った指導の充実が大切である。

（中学校学習指導要領解説特別活動編 P. 43　エ　望ましい勤労観・職業観の形成）

※2

（３）学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう〔学級活動〕等の指導を工夫すること。特に、中学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活をできるよう工夫すること。

（中学校学習指導要領解説特別活動編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱いＰ. 98）

ガイダンスの機能の充実は、学習指導要領第1章総則の第４の２の（５）で、「生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること。」と示しているように、生徒が自己の現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力の育成を図る学校全体の取組である。

特に、生徒指導や進路指導にかかわって、生徒のよりよい適応や成長、進路等の選択にかかわる、集団場面を中心とする指導・援助であり、生徒一人一人の可能性を最大限に開発しようとするものである。具体的には、生徒の学級・学校生活への適応や好ましい人間関係の形成、学業や進路等における主体的な取組や選択及び自己の生き方などに関して、学校が計画的、組織的に行う情報提供や案内、説明及びそれらに基づいて行われる学習や活動などである。したがって、ガイダンスの機能を充実させるための工夫とは、ガイダンス個々の活動について、ねらいをもち、その実現のために、これまでよりも適時に、適切な場や機会を設け、よりよい内容・方法で実施するよう改善を図ることであり、また、そのための指導計画を立て、教師の共通理解と協力により、その効果を高めるようにするということである。

学級活動にかかわる配慮事項については、本解説の第3章の第1節の３の（５）で解説しているが、生徒会活動や学校行事においても工夫することが大切である。例えば、生徒会活動では、委員会や部活動などについての上級生によるガイダンスの機会は多いし、中学校入学時に行われる学校行事や啓発的な体験に関する学校行事等においてガイダンスの機能の充実を図ることも望まれる。そこで、学級活動や生徒会活動、学校行事との関連も図ってガイダンスの機能の充実を図ることが大切である。

（中学校学習指導要領解説特別活動編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱いＰ. 98）

※3

ア　ガイダンスの機能を充実するよう〔学級活動〕等の指導を工夫すること。

　学級活動では、学校での基礎的な生活の場である学級において、新しい環境の中で、豊かな人間関係を築き学校生活への意欲を高めるなど、学級や学校の生活への適応とその充実・向上を図る活動である。ガイダンスの機能の充実は、こうした学級や学校生活への適応や人間関係の形成などについて、生徒が学校における諸活動や集団の意義、内容等について十分に理解し、よりよい適応や好ましい人間関係の形成に向けて積極的に活動する意欲や態度を養うために重要であり、主に学級活動の場を中心に展開されることが必要である。

　各学校においては特に工夫が求められるのは、入学時、新学期といった学校生活や学年の新しい生活あるいは学習や諸活動の開始時期などにおいて、認め合い、励まし合う集団の中で、生徒がこれから始まる生活に対して、十分な情報を得、見通しをもって、学校生活に積極的に取り組む意欲が持てるよう指導・援助することである。そのため、学級担任が各学級の指導の充実に取り組むことはもとより、学級担任が連携・協力して学年全体の指導の充実を図るため、指導内容によって、学年の教師や他の教師の協力を得たり、保護者の教育力あるいは上級生等の経験を活用したりすることも大切となる。

　また、進路等の選択については、これまで各学校が取り組んできた生き方の指導としての進路指導に加え、高等学校教育の多様化、さらに生涯を通じたキャリア教育の推進を踏まえ、生徒が自己の個性を発見し、伸ばしていくといった観点から適切な進路選択ができるよう、上級学校等の教育内容やその特色等をよりよく理解するために必要な情報の収集・提供の在り方について、上級学校との連携による体験入学の機会や卒業生の景観の活用など、学級活動の内容・方法を工夫していくことが大切になっている。

　こうした観点から、3学年間を通じた系統的、発展的なガイダンスの計画を立てることが大切である。

イ　中学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標を持って生活をできるように工夫すること

　中学校生活は、それまでの小学校での生活と異なり、教師と生徒及び生徒相互の人間関係も多様になり、また学習面ではその内容等が深化するなど、生活環境や学習環境が大きく変化してくる。また、自我の目覚めや思春期における不安や悩みなど新たな発達上の課題にも直面するようになる。

　特に、中学校入学当初は、小学校から入学してきた生徒による新しい集団、教科担任制や新しい教科、部活動の開始などの変化に興味･関心をもち、新たな決意や目標をもちやすい時期であるとともに、生徒同士や生徒と教師の新たな人間関係や未知の事柄への不安を抱く時期でもある。その中で、いわゆる中１ギャップにより、新しい学習環境や人間関係につまずいて、学校生活への不適応を起こすことも少なくない。

　学級活動の指導計画に当たっては、生徒の実態に応じ、いわゆる中1ギャップによる学校不適応等に十分配慮し、また、小学校高学年の学級活動との接続も図って、生徒に希望や目標を持たせるとともに、達成感を味わわせることができるよう工夫する必要がある。

　そのために、学区内の小学校と中学校との連携を深め、中学校への体験入学、保護者等への説明会など、地域全体で取り組んでいく工夫などが大切である。

（中学校学習指導要領解説特別活動編　第3章学級活動　Ｐ.48～49）

分量が多くなりましたので、後半の「生徒の学校生活への適応や人間関係の形成、主体的な進路の選択などができるよう指導・援助に努めましょう。」については、次回、考えてみます。

9月13日（金）頃アップの予定です。